〈報告〉

短編映画『星が瞬く夜に』制作プロジェクトの報告

島田英二*

Production Report for the Short Film *"The Night When Stars Twinkle"*

Eiji SHIMADA*

要旨

北海道情報大学情報メディア学部情報メディア学科, 映像表現系ゼミナール（島田英二ゼミ）では, 学生主導のプロジェクトとして 2022 年に短編映画『星が瞬く夜に』(20 分 26 秒）を制作した。本稿は, この作品の企画から完成, 公開にいたる詳細とプロジェクトの成果について報告する。完成作品は第 17 回札幌国際短編映画祭に入選し， 2022（令和 4）年 10 月に札幌で上映された。

Abstract

In 2022 Eiji Shimada's seminar in the Faculty of Information Media, Hokkaido Information University, produced a short film by students, titled "*The Night When Stars Twinkle* "(20min 26sec). This paper reports its project detail from development to screening. The completed film was nominated in the 17th Sapporo International Short Film Festival and Market (SSF) in October 2022.

キーワード

映画制作(Film production)　短編映画（Short film）　映画演出 （Direction）　映画祭(Film festival)

* 北海道情報大学情報メディア学部准教授，Associate Professor, Department of Information Media, HIU

1.　はじめに

北海道情報大学では2011（平成23）から学生のコンテスト参加支援制度を開始しており，筆者のゼミナール（以下島田ゼミ）では毎年，15～20分程度の短編映画を制作し，札幌国際短編映画祭へ出品している。本稿では，2021（令和3）年に制作を開始し2022（令和4）年に完成した短編映画『星が瞬く夜に』の制作プロジェクトについて報告する。本プロジェクトの活動時期である2021年9月～2022年3月は，全国的な新型コロナウイルス感染拡大の第6波の時期に相当した。制作においては，2022年に島田ゼミで作成した感染防止型撮影実習ワークフロー（島田 2022）に基づき，状況に応じて十分安全に配慮して行った。

2.　プロジェクトの流れ

本プロジェクトは，短編映画を制作し，学生が制作者として映画祭で作品を発表（参加）することを目的とする。目標の一つとして札幌国際短編映画祭を設定し，企画の案出し，脚本開発から，準備，撮影，編集といった映像制作のワークフローに則って制作する。以下各工程について詳しく述べる。

2-1　プロジェクトの背景

2021年度は，前年より延期されていた東京五輪（2021年7月23日～8月8日）が夏期に予定されていた。会期の直前には第5波となる新規感染者の増加傾向があり，東京都に四度目の緊急事態宣言（2021年7月12日～8月12日）が発出されたが，無観客など一部制限を行いながら大会は予定通り開催された。札幌では8月5日～8日の4日間に競歩，マラソン等計5種目が行われた。本プロジェクトの企画を考え始める時期は大学の後期始め（9月頃）であったが，この時点ではコロナの第5波は収束傾向にあった（図1）。また本学では2021年6月28日から大学拠点接種（職域接種）を開始し，9月28日には2回目の接種の実施を終え，この時点で学生の接種率は約70%となった（北海道情報大学 2021）。また北海道の緊急事態宣言が9月30日で解除されるのを受け，本学では10月1日から感染防止危機管理レベルを「レベル1」に変更した。これを受けて本学では2021年度後期の授業形態について対面授業が一部再開された。遠隔授業も多く行われていたが，対面指導が必要なことが多い実習系の講義で，感染対策を十分に行うことで実施が認められる雰囲気となったことは，前年度と異なり本プロジェクトにとって追い風となった。

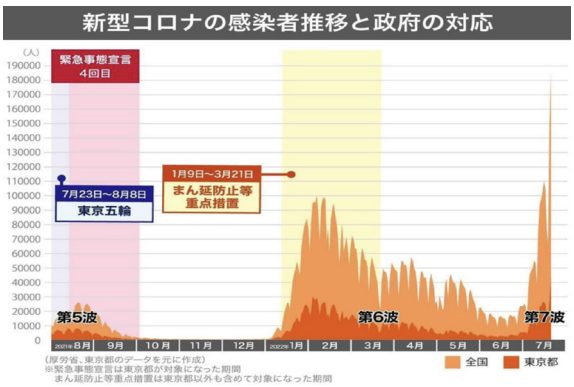

図1　新型コロナ感染者の推移（2021年7月21日時点）（画像制作：Yahoo!ニュース）

2-2　企画開発1（一次選考）

2021年の島田ゼミ生は当時3年生11名であった。9月末，短編映画の初期案として19案が集まった。一覧すると「ニューノーマル」という設定や「在宅ワーク」「オンライン」といったコロナ禍に特有のキーワードが目につく（図2）。考えてみると彼らの入学年は2019年であり，1年時（2019年）の終わりに新型コロナウイルスがニュース等によって周知された。2020年1月には国内の初感染者の確認，以降，2月には横浜港に到着したクルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」での集団感染，4月には初めての緊急事態宣言の発出，世界的な感染者・重症患者・死者数の累積増加，日々

加熱する新規感染者数のニュースや，自身や家族の感染の恐怖といった濃密な一年間があった。そして大学は遠隔授業等に変わり，3 年生になってから（2021 年）は緊急事態宣言が 3 度発出され，外出自粛や新しい生活様式への適用を経験してきている。そのような中でようやく（希望者は）6 月にワクチンを接種することができ，9 月には 1 年延期されていた東京五輪・パラリンピックが終了したのである。2021 年の 10 月に短編映画の企画を作るに当たり，19 案のうち 42%にあたる 8 案がコロナの影響を受けた主人公の物語であったのは，2020 年と 2021 年が彼らの価値観や世界観に与えたインパクトを物語っているのではないか。ここから投票とディスカッションを行い，企画を絞りこんだ。一次選考を通過したのは，「(B1) ニューノーマルな生活と VR」，「(E1) 世の中すべてがブラック企業という恐ろしい世界」，「(E2) VR 世界が楽しすぎて現実に帰ってきたくない人の話」，「(F1) 一人の女の強さと弱さ」，「(G1) 在宅ワークになったが全然眠れない人」，「(I1) 就職率 100%，進学率 0%の大学に隠された謎」の 6 案であった（表 1 ハイライト参照）。

表 1　初回企画案一覧

短編映画プロジェクト2021-2022　初期案			得票数	候補	コロナ禍
学生	案番号	内容			
A	1	映像制作を舞台に、その人なりの理由、正義			
A	2	人が起こすドラマを人ではない第三者から見た風景	1		
B	1	ニューノーマルな生活、VR	3	○	○
C	1	コロナ期間で家に篭ってゲームやSNSを一日中やっている少年と外の世界	2		○
C	2	声を伝える作品	1		
C	3	目が覚めるとゲームの世界に入ってしまった男の話	2		○
D	1	何かの視点を映像化したもの（例：音楽室のバッハが1日中見てるもの）			
D	2	人を殺めた人が見る自首に至るまでの話	1		
E	1	世の中すべてがブラック企業という恐ろしい世界	5	○	
E	2	VR世界が楽しすぎて現実に返ってきたくない人の話	4	○	○
E	3	人の一生を一人称視点でダイジェスト感覚で映し出す			
F	1	一人の女の強さと弱さ	6	○	○
G	1	在宅ワークになったが全然眠れない人	3	○	○
G	2	家に籠りっぱなしで人と会うことのない主人公が隣の部屋の人間と壁を叩いてコミュニケーション	2		○
G	3	「誕生日おめでとう」と次々と周りの人にプレゼントを配り始める超効率人間の話。			
H	1	オンラインだのオンデマンドと、勝手が違う状況下でストレスが溜まっている学生の物語			○
I	1	就職率100%、退学率0%の大学に隠された謎	4	○	
I	2	10年前に殺人事件に巻き込まれ孤児になった男がある日一人の男性から声をかけられる。			
I	3	何でも依頼を引き受ける便利屋その名も「ベンリヤーズ」が超人的能力で地球を救う話			

2-3　企画開発 2（二次選考）

ゼミナールの授業形態は前年度と同様に遠隔授業で行っており，プラットフォームとして Zoom とデジタルホワイトボードサービスの Miro を使用した（図 2）。

図 2　第二回企画会議（Miro）

投票した者同士でグループを作り，Miro 上にあらすじを提出してもらい企画のプレゼンを行った。内容については初回より進んだアイデアが見られた。たとえば，「世の中すべてがブラック企業」の案では，「望んだ夢を見られる錠剤」が登場する設定となった。在宅ワークの物語についても，「音が気になって寝れない」という設定が加わっている。ここで 6 案から 4 案に絞り，次のプロット開発へ進んだ（表 2）。この段階で Miro 上の番号 1 と 3 が却下となったが，理由は両者とも VR 世界の映像表現が難しいということであった。発想は自由であるが，実際に制作するため，技術的に可能かという部分も検討しながら，企画書に落とし込んでいった。

表 2　第二回企画会議（Miro）

短編映画プロジェクト2021-2022　二次選考案			得票数	候補	コロナ禍
学生	Miro上	内容			
B	1	ニューノーマルな生活、VR	3	○	○
E	2	世の中すべてがブラック企業という恐ろしい世界 →望んだ夢を見られる錠剤の話	5	○	
E	3	VR世界が楽しすぎて現実に返ってきたくない人の話 →仮想空間から帰ってこれなくなる話	4	○	○
F	4	一人の女の強さと弱さ	6	○	○
G	5	在宅ワークになったが全然眠れない人 →音が気になって寝れない話	3	○	○
I	6	就職率100%、退学率0%の大学に隠された謎	4	○	

2-4　企画開発 3（企画書）

企画書にはあらすじに加えて，企画意図や登場人物のリスト，撮影時期なども記載する。こ

の段階の選考で企画案は,「(2)ブラック企業」と「(4)一人の女の強さと弱さ」,そして「(5)眠れない人」の３つとなった（表 3)。

表 3　第三回企画会議

番号	開発キーワード	企画意図（要約）	ワーキングタイトル
2	ブラック企業、錠剤	・若者の政治への関心の低さ、投票率の低さ	ブラック企業（仮）
4	一人の女の強さと弱さ	・逆境でもあきらめないことの大切さ	星が瞬く夜に（仮）
5	眠れない人	・家族との関係	・姉妹の話（仮）
		・スマホ依存	・眠れないんだってば（仮）
		・昼夜逆転	・ねむりまな子（仮）

「(2)ブラック企業」の案は,「望んだ夢を見せてくれる錠剤」というものを不思議な道具として使いながら,主人公が決して幸せになれない世の中になってしまったことを嘆き,その背景に「若者の政治への関心の低さ」や「投票率の低さ」を描こうというものであった。「(4)一人の女の強さと弱さ」は,ある J-POP ミュージックの楽曲からインスパイアされたものであったが,「逆境でもあきらめないことの大切さ」をコロナ禍で奪われた若者の未来や可能性に重ねるようなものとして提案された。「(5)眠れない人」は,「コロナ禍における在宅ワークの増加」を背景にしていたが,企画自体はもう少し「家族との関係」や「スマホ依存」,「昼夜逆転」といったライフスタイルをコメディタッチで描くような案にシフトしていた。そして最終的には,この中から「(4)一人の女の強さと弱さ」案が選出され,脚本開発を行うことになった。

2-5　脚本執筆

2-5-1 プロット～初稿

プロットをもとに脚本を執筆する。主要登場人物は二人で,初期のプロットは以下の通りである。

高校卒業後に夢を追って上京し,ダンサーを目指す彩菜(あやな)と,歌手を夢見る朱里(じゅり)。彩菜には彼氏の寛貴（ひろき）がいるが,突然の交通事故で死んでしまう。彼を失い一人残された彩菜は絶望し,夢を諦めて田舎に帰ろうとするが,朱里の励ましと寛貴が残した日記が見つかったことによって何とか踏みとどまる。朱里は彩菜に対して二人で新しい夢:音楽をやろうと誘いかける。彩菜は朱里と二人で新しい夢を追いかける。

このプロットをもとに脚本チームでは初稿から第 7 稿まで書き進めたが,脚本会議の中ではいくつかの問題点が繰り返し指摘されていた。ポイントは大きく分けて 3 つ,①主要登場人物である彩菜と朱里の二人の人間関係の描写が希薄,②創作上用意したプロットの仕掛けがわざとらしい,③「ありがち」な物語になっている,ということであった。すでに枚数が 10 ページを超す分量で,これ以上加筆をしていくとロケ場所もロケ日数も増えていき制作費が予算を超えることも懸念された。

そこで 10 稿を境に,方向性の異なる「B 稿」を並行して開発することとした（図 3)

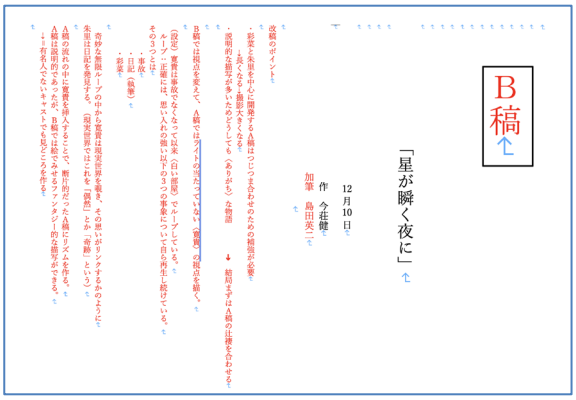

図 3　B 稿の表紙と注釈

2-5-2 B 稿の開発

B 稿開発のポイントは以下の通りである。

現脚本（A 稿と呼ぶ）の問題点：

①彩菜と朱里を中心に開発する A 稿はつじつま合わせのための補強が必要→長くなる→撮影が大きくなる

②説明的な描写が多いためどうしても〈ありがち〉な物語になる。

提案：B 稿の方向性

・視点を変えて,A 稿でライトの当たってい

ない〈寛貴〉の視点を描く。

（設定）寛貴は事故で亡くなって以来〈白い部屋〉でループしている。

ループ：正確には，（寛貴の）思い入れの強い以下の 3 つの事象について自ら記憶を再生し続けている。その 3 つとは：

1）事故, 2）日記（執筆）, 3）彩菜

これら奇妙な無限ループの中から寛貴は現実世界を覗き, その思いがリンクするかのように, 朱里は日記を発見する。（現実世界ではこれを「偶然」「奇跡」と言うとする）

改稿の効果

・A 稿の流れの中に寛貴を挿入することで, 断片的だった A 稿にリズムを作る。

・A 稿は説明的であったが, B 稿では映像で魅せるファンタジー的な描写ができる。

＝有名人でないキャストでも見どころを作る。

これらを受けて A 稿と B 稿を比較し, 最終的に B 稿をもとに決定稿を作ることになった。

2-5-3 決定稿と演出の課題

決定稿では, 視覚的なシーンが追加されている。まず映画の冒頭は寛貴の交通事故から始まる構成となっている。交通事故のシーンをどう映像で表現するかが演出プランの見せ所となる。寛貴は「白い部屋」に囚われている設定であるため, その空間を美術でどのように表現するか, またそこで起こる不思議な現象：「コップの水が自然に減る」描写の具体的な撮影方法も検討する必要がある。映画のクライマックスでは, 星空と流れ星のシーンが技術的な壁となった。最後に, 映画のエンディングはライブ会場のシーンが加わり, 物語部分は全部で 13 ページとなった。この後, この決定稿をもとにプリプロダクション（撮影準備）を行っていく。

2-6　プリプロダクション

2-6-1　キャスティング

主な俳優は３名であった。まず監督に要望を出してもらい, キャスティング会社に依頼して候補者を探した。監督の要望は以下のようなものであった。

登場人物

主人公（18）（彩菜）（誕生日 12 月 27 日）

・18〜23 歳くらい
・ロングヘア
・できればギターができる
・できればダンスができる
・歌がうまい
・黒髪
・身長 160 くらい

性格

・努力家で夢見る少女
・自分を信じている
・友達は少ないがとても大事にする

友達（18）（朱里）

・18〜23 歳くらい
・ショート
・歌　普通
・金髪
・身長 160 くらい

性格

・活発で誰にでも好かれるタイプ
・体が先に動くタイプ
・友達が多い

彼氏（寛貴）（23）

・21〜25 歳くらい
・料理上手

性格

・一途, 優しい

この条件の下, 送られてきた資料から絞り込み, 配役を決定した。寛貴役は別途候補者を検討し, 監督の友人の俳優に決定した。

2-6-2　ロケハン

決定稿からロケ地の候補を探し, リストアッ

プしていった（図 4）。大学の施設は比較的容易に撮影許可が得られるが，カフェや駅，カラオケ，ダンススタジオといった外部施設は断られる可能性があるため，ロケハン担当は早めに確認していった。まず最初にカフェについて，監督の友人の家族で経営しているお店から協力が得られそうという報告があった。続いて駅の施設やカラオケ店へは企画書や撮影図といった資料を提出し，こちらも撮影許可が得られる見込みとなった。ダンススタジオについては有料施設を予定したが，後に新型コロナウイルスの影響で変更となった。彩菜の家についてはゼミの女子学生から自宅使用の協力が得られた。最後まで苦戦したのは交通事故現場となる「交差点」のロケ地であった。このシーンは合成を前提としていたが，この年は大雪で道路横に除雪の大きな雪山ができており，なかなか監督のイメージに合う場所が見つからなかったためである。

ロケ地 候補　ver03

	第１候補	第２候補	第３候補
公園	あかげら公園	大学の敷地（野球場 仮）	
ダンススタジオ	市民交流施設プラット		
カフェ	えぞりすmeal		
ライブ会場	講堂		
札幌駅	南口広場	野幌駅　南口	グリーンバック
彩菜の家	浅川先輩の家(野幌)	今荘の後輩の家	
街中(路上ライブ)	野幌駅　南口広場		
カラオケ	カラオケ歌屋 江別店		
白い部屋	グリーンバック		
葬儀場	eDCタワー10階		
交差点			
実景（彩菜宅のある住宅街を匂わす）	大学近辺の住宅街		
音声録音	大学　Gスタジオ		
黄色は確定			

図 4　決定稿初期のロケハンリスト

2-6-3 美術制作

美術部では，脚本中の「白い部屋」をどのように表現するか，レファランス資料をもとに議論していった。島田ゼミでは過去に『Perfect One Room』(2012) という短編映画を制作しており，その中にも「白い部屋」が登場する。この事例では部屋の壁と床を含めた 4 面が映る必要があり，また大学から運搬する必要があったため，白色に塗装した合板を現地で組み合わせてセットを作る計画とした。この例ではテーブルの下は前板によって隠され人物の脚は見えない（図 5）。

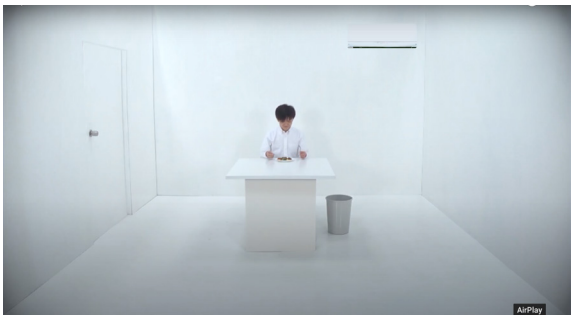

図 5　Perfect One Room の白い部屋

この他，長編映画『しんぼる』（松本人志監督，2009 年），連続ドラマ『コンフィデンスマン JP　第 1 話　華麗なる詐欺師　今夜の標的は強欲非道ゴッドファーザー!!』(2018)，日本のバンド amazarashi の MV『季節は次々死んでいく』（2015）の白い部屋も参考とした。

リサーチでわかったのは，

・テーブル下に人物の足を映すかどうか？
・テーブルの脚を何色にするか
・椅子の背もたれの高さと映り方
・室内に陰影を必要とするか？

といった注意点である。これらを監督に確認し，最終的に美術設計を以下の方針とした。

・床面は板を塗装，3 枚組み合わせる
・椅子はハイバック，白色に塗装
・テーブルの脚は白（白紙を巻く）
・背景はクロマキー合成を行う

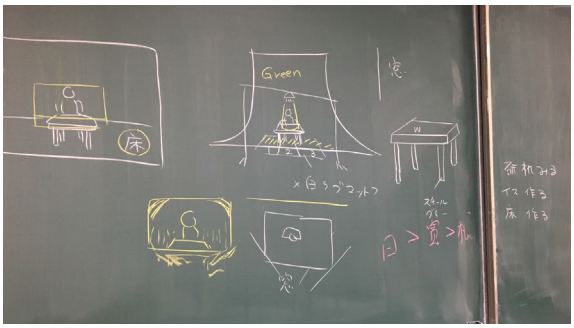

図 6　白い部屋の美術設計

図 7　合板の塗装作業

図 8　使用した白テーブル

図 9　塗装前のハイバックチェア

床の合板の塗装作業は乾燥まで保管する必要があるため，本学の 106 教室を借りて行った。塗装作業は当初スプレーを予定していたが分量が足りず色が定着しないためペンキ塗装に切り替え，数度重ね塗りを行った（図 7）。

テーブルは丁度よいサイズのものがあったが，借り物で脚がシルバーのスチールであったため，脚に白色の紙を巻いて使用することとした（図 8）。

椅子については，引きの映像にしたときに背もたれが見えてほしいという監督の要望によりハイバックチェアを探すことになった。作るか購入するかの判断があったが，自作した場合の椅子の耐久性の問題（事故回避）と，中古家具店で安価な椅子が見つかったため（図 9），最終的に購入して塗装することにした。最終的には図 10 のようなセットとなった。完成時は上手く出来たように思えたが，後の合成時には緑の反射光に悩まされることになった。

図 10　美術セットの完成形

2-6-4 衣装・小道具

本作品の決定稿は，柱（シーン）が 32 個，日替わりが 11 回，主要登場人物が 3 名の脚本であった。主要キャストの衣装リストを作成したところ，彩菜の衣装パターンは 8 つ，朱里は 8 つ，寛貴は 4 つであった。それぞれの衣装は日付と番号（ア～サ）で区分けして管理した。衣装は日常の服や部屋着などの他，葬式シーンの喪服，ライブシーンのためのステージ衣

装といった特殊なものもあった。劇中小道具としては, ギター, カレンダー, 日記, 天体望遠鏡, 腕時計, などの他, パスタ, 簡単な料理などの消え物, コップ（破壊される）, チェスト（倒される）など壊れる予定のものもあった。変わったものでは葬式の焼香盆があったが, これは通販で安く手に入れることができた。ライブコンサートシーンでのギターやドラム, アンプなど大型のものは本学の軽音楽部から機材協力を頂いた（図 11）。

図 11　コンサートシーンの楽器

2-9　オールスタッフミーティング

2022 年 1 月 29 日（土）にオールスタッフミーティングを行った（図 12）。学外のスタッフとしては主要キャストの彩菜役：丸山琴瀬さん, 朱里役：森川真帆さん, 寛貴役：板橋和生さん, ヘアメイクの宮崎ちほさん（ビューティーアート専門学校）が参加した。

図 12　オールスタッフミーティング

今回寛貴は死後の存在として非日常的なメイクがあったことや, 宮崎さんが男性のヘアメイクが初めてであったので, オールスタッフ時にメイクテストも行った。同日行われたリハーサルでは立ち稽古による動きの確認や演出のテストが行われた。（図 13）

図 13　リハーサル風景

2-10 撮影

撮影は, 2022 年 1 月 30 日（日）, 2 月 1 日（火）, 2 日（水）, 6 日（日）の 4 日間で計画したが, 追加撮影を行うこととなり, 最終的には 3 月 11 日（土）, 3 月 12 日（日）を加えた 6 日間で終了した。撮影の総合スケジュールの特徴としては, 初日に作品のラストシーンであるコンサートシーンの撮影を行い, 作品の核となる, 彩菜の感情的なシーンと, 見どころの星空のシーンは, 当初の最終日となる撮影 4 日目に予定した。コロナ下でスタッフの体力回復を考慮し, 撮影日は連続させず, なるべく複数の週にまたがるように配置した。各撮影日について, 以下に詳しく述べる。

2-10-1 撮影 1 日目

撮影初日であったがいきなり撮影の延期が発生した。朝連絡があり, 夕方に予定されていた江別市の市民交流施設「ぷらっと」で前日の利用者に新型コロナウイルスの感染者が確認された。これを受けて施設は消毒のため利用ができなくなった。よってこのシーンの撮影は延期の判断となった。その他のロケ地では予定通り撮影を行った。まず映

画のラストシーンとなる，ライブコンサートのシーンから撮影した。ロケ場所は本学の講堂で，ライブ会場のような雰囲気を出すため大きな黒布をレンタルし，背景美術としてステージ上のバトンから吊って背景とした（図14, 15）。照明は講堂の既存のスポットライトにレンタルしたスポットライトを追加している。観客役とバンドメンバー役にはエキストラを 20 人集め，満員の観客席は同ポジ合成で表現することとした。

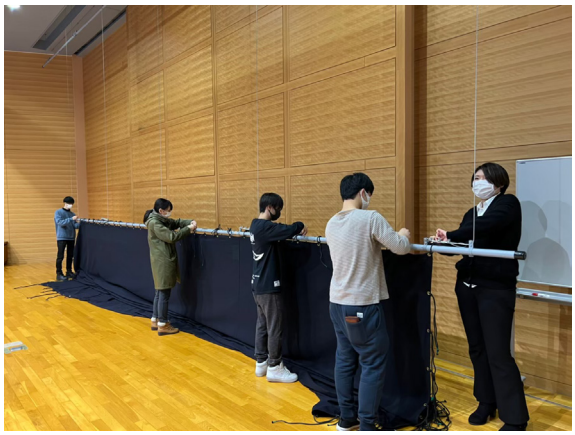

図 14　上部バトンへの黒布取り付け

図 15　ライブシーンの全景

続いて野幌駅で朱里の路上ライブのシーンを撮影した。撮影許可を取得していたことと，撮影場所が通行動線から外れていたので特に問題なく撮影することができた。続いて葬式のシーンは，本学の eDC タワー10F で行った。葬式の表現は，長机に白布を敷き，小道具として焼香盆を用意したのみの簡素なセットとし，撮影で狭く切り取って撮影した（図 16）。ただの白壁では映像が単純になるため，背景に椅子を置いて画面に変化と空間の広がりを持たせた（図 17）。

図 16　eDC タワー10F での撮影風景

図 17　人物の背景の椅子

2-10-2 撮影 2 日目

2 日目はカフェの撮影から開始した。ロケ地は監督の友人の協力で石山のカフェ「えぞりす meal」にて撮影許可を得ることができた。今回の物語にはコロナの設定がなかったので，現実のカフェにあるアクリル板や手指消毒の用品は画面に映らないように配慮した。この後は札幌駅北口へ移動して駅前で撮影した。

2-10-3 撮影 3 日目

3 日目は今回の撮影で最も密度が濃い一日となった。最初に本学の G-Studio で朱里と彩菜のアフレコを行い（図 18），次に学外のカラオケ店で撮影（図 19），午後は「彩菜の家」にて演技的に最も難しい，彩菜が「彼氏の死の知らせを受ける」感情的なシーンを撮影した。「彩

菜の家」では現場のスタッフ人数を制限し，残りのスタッフは次の現場（屋外）を準備した。ロケ現場は腰の高さまで雪が積もっていたが，前日に別班に除雪を行ってもらったので当日はスムーズに撮影できた。屋外撮影では発電機を入れ，5m ほどの高さから照明を点灯して行った。（図 20）。

図 18　G-Studio でのアフレコ風景

図 19　カラオケ店の撮影風景

図 20　屋外撮影風景

2-10-4 撮影 4 日目「白い部屋」

4 日目は寛貴のみの撮影で，音声のアフレコと，「白い部屋」のためのクロマキー撮影を行った。撮影場所は本学の 204 教室で，窓面に向かうようにクロマキー機材のセットを設置した（図 21）。

図 21　クロマキー撮影風景

「白い部屋」は寛貴が死後に訪れる一時待機所で，時間の流れ方が異なるという設定であった。ショットリストで特殊なものとしては，「コップの水がひとりでに減っていく」という演出があった。「水」は死後の寛貴に残された時間というメタファーであり，寛貴の横にあるコップの中で徐々に水が減っていくという設定で，撮影時にはコップに水を注いでいき，編集で逆再生させる計画とした。何バージョンか撮影を行ったが，コップの中に細かい水滴が付着したり，水中に気泡が発生するなど調整が難しかった。もう一つ特殊なショットとしては，「コップがひとりでに地面に落ちて割れる」という破壊の描写があった。ここではスローモーション撮影を行ったが，床が木製で弾力があったことや，コップに厚みがあったため割れにくく，何度か挑戦した。最終的にはコップを力強く床に叩きつけることになり，コップは割れたものの粉々になってしまった。映像はスローでも認識しにくいショットとなり，破壊シーンの撮影の難しさを感じた。この後天候が吹雪となり，予定していた交差点シーンの撮影は延期となった。

2-10-5 撮影 5 日目（追加撮影 1）

5 日目は, 前の撮影（2 月 6 日）から約一ヶ月後の 3 月 11 日に, 延期になった交差点のシーンを撮影した。交通事故の描写を安全に撮影するため, 合成を前提とし, 車のみ, 人のみなど必要なパーツに分けて素材を撮影した。

2-10-6 撮影 6 日目（追加撮影 2）

6 日目は, 初日に延期になったダンススタジオのシーンを撮影した。ロケ地は当初予定していた場所から変更となり, 札幌のレンタルスタジオ Life Style Create で撮影した。ここは床がフローリングで片側の壁が全面鏡になっており, ロケーションの特徴を生かして撮影することができた（図 22）。

図 22　ダンススタジオの撮影風景

2-11 撮影機材と設定

カメラは Black Magic Design Pocket Cinema Camera 4K（BMPCC4K）を使用した。撮影は 4K UHD,Blackmagic RAW 収録, 完成フォーマットは FHD で 16:9, FPS は 23.976 とした。

2-12 編集, VFX

編集は Adobe Premiere Pro を使用した。大まかな仮編集を行った後, 細部を詰めていった。VFX は Adobe After Effects を使用した。合成シーンの詳細について以下に述べる。

2-12-1 交通事故のシーン

交通事故の流れは以下のモンタージュで表現した。1 カット目 : スマホを見ながら歩く寛貴, 2 カット目 : 車に気がつく寛貴の CU＋クラクション音→3 カット目 : 倒れている寛貴と手前の雪山に衝突している車, といった順である。この 3 カット目では衝突後を見せるため合成を行った。映像を 4 つのレイヤーに分け, 最奥から①コンビニの背景, ②倒れている寛貴, ③手前に衝突している車両, ④最前列の雪山という順で重ねている（図 23）。各素材の位置を調整し, 最終的な映像はグレーディングで色調整を行った（図 24）。

図 23　合成前の背景

図 24　合成後の画面

背景のコンビニのロゴについてもできるかぎり消去している。この合成は事前にプレビズも制作しており，プレビズ時に道路が濡れていて信号の光が車道に映り込むのが良かったため，本番の撮影も雪と雪解けの量を見ながら撮影日を選んだ。脚本では，事故の衝撃で寛貴の持っていた買い物袋が落ち，地面に飲み物が散乱している描写があったが，プレビズを見て必要ないと判断し，本撮影では削除されている。交通事故のシーケンスでは最後に割れたスマートフォンが映るが，この割れた画面は合成で制作した（図 25）。

図 25　合成前のスマホ（左）と合成後（右）

2-12-2　「白い部屋」のシーン

クロマキーで撮影した素材にキーイング処理をし背景合成を行う。キーイングは After Effects の Keylight (1.2)を使用した。テーブルに置いたコップの水がひとりでに減っていく演出は，水を加える映像を逆再生するプランとしたが，実際の編集はそれほど単純ではなく，複数の合成を組み合わせることになった（図 26）。具体的には，以下の 5 つである。①コップの上の容器と流れ落ちる水の線を消去する，②コップの中の水の線を消去する，③水面の乱れを整える，④水中の気泡を消去する。撮影時には，コップの中で背景合成が発生しないように床に使用していた白い合板を背景として使用した（図 27）。

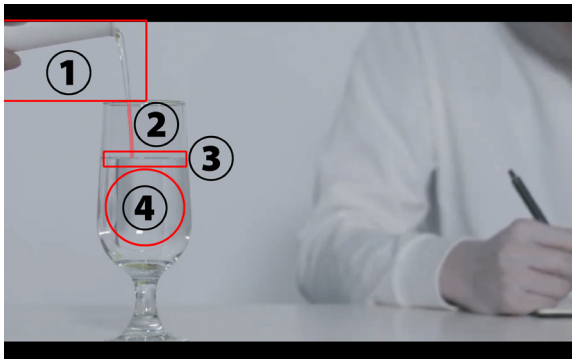

図 26　コップの水の合成と不要部分の消去

図 27　コップの後ろに背景を入れる

別なシーンで「寛貴が立ってこちらを見つめている」というショットがあったが，こちらはコップを白背景の独立した素材として撮影し，編集でマスクを描いてそれを寛貴のミドルショットのクロマキー素材に合成している。（図 28, 29）同様に，テーブルと椅子のみのショットでもクロマキー合成を行っている。撮影時にテーブルの天板面への緑の映り込みがあったため，編集で合成する時にはマスクを描いて補完することになった（図 30, 31, 32）。

図 28　コップの白背景素材とマスク

図 29　合成後のショット

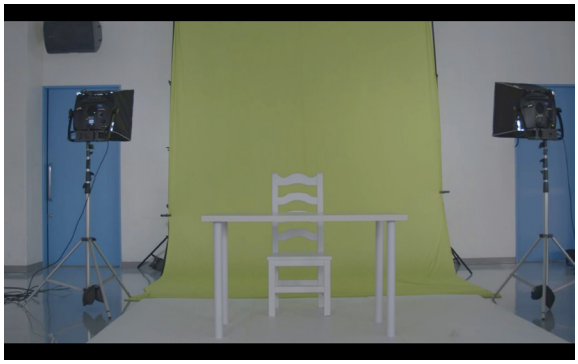

図 30　テーブルと椅子の撮影素材

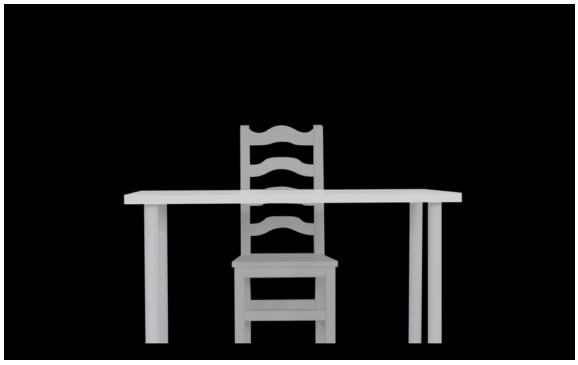

図 31　テーブルと椅子のマスク

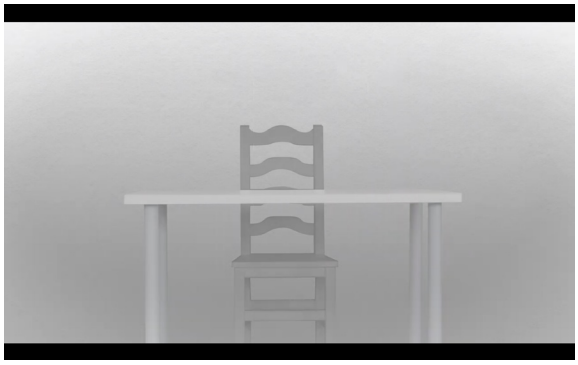

図 32　合成後のショット

2-12-3 星空のシーン

星空のシーンでは空に星を合成する想定で撮影を行った。しかし，キャストのスケジュールが合う日が一日だけで，撮れる映像の条件は天候次第となったが，当日は曇り空となり，合成素材としては厳しい条件となった。星単体の撮影は通常の撮影では難しく，長時間露出撮影も検討したが，物語的に流れ星が必要であることや，理想に近い星空の撮影に技術と時間を要すること，また背景が曇り空となってしまったことで，演出の幅が狭くなった。そこで星空は主人公の視線（POV）に限定した心象風景という演出とした。POV に有料の星空素材を使用すると違和感があるが，ここでは逆に映像の一貫性でなく音楽の強調や色で演出した。そして流れの中で 1 カットだけ背景に星空を合成し，あえて印象づける演出とした。このショットは合成前の素材は曇り空であり，また手持ちカメラで画面が揺れていて，被写体を回り込むようなカメラワークがあった（図 33）。マスクで抜くしかないのだが，マスキングは非常に複雑で，トラッキングも試みたがうまく行かず，最終的にはロトブラシと手描きのマスクを組み合わせて合成を行った。（図 34, 35）

図 33　合成元実写素材

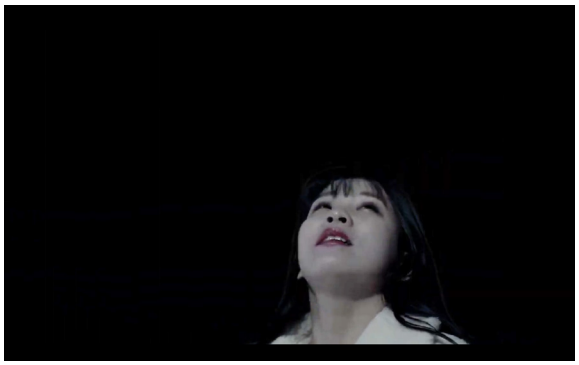

図 34　ロトブラシによる背景の透明化

図 35　背景合成後の完成画面

2-12-4 コンサートのシーン

コンサートシーンは暗闇で大勢の観客がいる設定であった。撮影は本学の講堂を使用し，観客席は 15 人程度のユニットの組み合わせによる同ポジ合成を前提に撮影した。まず，主人公が立っている完成時のフレームを決め，前景と背景を分けた。背景の観客はペンライトを動かしている設定とし，画面内を 15 ブロックに分け，場所によってペンライトの色を変えて一定時間ずつ撮影した（図 36）。編集ではこれらを一つにまとめた（図 37-38）。また，前述した星空のシーンで作品内に心象風景が位置づけられたことから，（脚本にはなかったが）観客席の天井に星空が見える画面デザインとした（図 39）。画面上部の星とは寛貴であり，観客のペンライトは現在の彩菜を応援してくれるもう一つの星空になるという，タイトルとも呼応する印象的なショットとなった。作品はこのキラーショットを見せて終わる構成とした（図 40）。

図 36　1 ユニット（15 人）の撮影風景

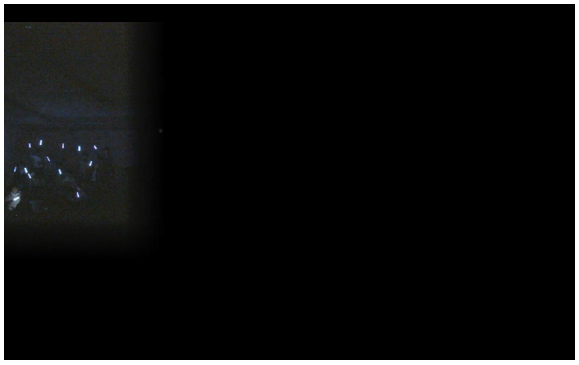

図 37　1 ユニット分の素材

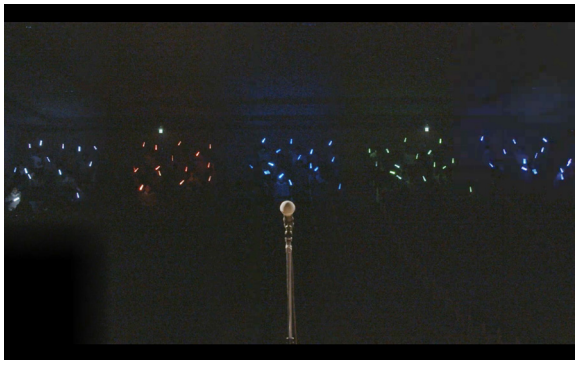

図 38　5 ユニットの合成後

図 39　合成後の完成背景

図 40　前景を加えた完成画面

2-13 MA

MA は札幌市のスタジオ･リッチョで行った。今回の作品は物語のリズムが白い部屋のシーンのインサートによって作られるため，サウ

ンド・デザインとしては彩菜と朱里の（現実の）シーンと寛貴単独の（記憶の）シーンの音を対比的に演出していく方針とした。寛貴のシーンでは交通事故のような衝撃性のある強い音やガラスの破裂音，また死後の世界である白い部屋はなるべく無音とし，彩菜の生きる現世と区別した。本作の脚本はミュージシャンが登場し音楽を扱った物語であり，朱里のギター演奏シーンや，寛貴と彩菜がギターで歌うシーン，朱里と彩菜のカラオケシーン，そしてクライマックスのコンサートシーンと，音楽を描写するシーンが多い。しかし，本作では映像的には音楽と同期する演奏描写を行わない。そのため，これらのシーンはサウンドトラック音楽でダイジェスト的にカバーする構成となった。これに加えカフェのシーンでは店内 BGM で心情を表現するなど，全体としては音楽の使用が多い作品となっている。その中でも，星空のシーンは彩菜が星空を見て天からの寛貴の言葉と彩菜の心がシンクロするシーンであり，本作の中でもっとも際立ってほしいシーンであったため，MA においても細かな調整を行った。寛貴と彩菜の言葉はあえて重ねず，音声的なずれを伴いながら気持ちよく見られるバランスに落とし込んだ。

図 41　MA の風景

2-14 作品情報

完成作品の情報は以下の通りである（表 4）。

表 4　作品情報

作品名	星が瞬く夜に
長さ	20 分 26 秒
フォーマット	FHD｜23.976｜カラー
ジャンル	フィクション
完成年	2022 年
あらすじ	高校を卒業した彩菜と朱里はそれぞれダンサーとシンガーを目指し，夢を叶えるために上京する。約半年後，思うようにいかず悩む彩菜のもとに，交通事故のニュースが舞い込む。
主演	丸山琴瀬，森川真帆，板橋和生
エキストラ	段坂一貴　皆川果歩　鈴鹿萌笑　三平希美 小松仁　福岡未緒　白金悠　鈴川一乃 廣瀬崇人　宇野裕貴　中澤昇平　成田琉夢 浅川優衣　角瀬新治　工藤輝弥　近藤強 正木さくら　嶋田后彩樹　永井空未 江澤友佑　山岸雄翔　多田颯　藤本秀史 青山蓮　鳥居聖士　岡田直浩　南朝陽 青木鞠乃
作品リンク	https://youtu.be/yP8XURvQn48

エンディングのスタッフクレジットは以下の通りである（表 5）。

表 5　スタッフクレジット（括弧内は制作当時の学年）

脚本・監督	今荘健(3)
助監督	鶴田寛也(3)　渡邊健介(3)
プロデューサー	鶴田寛也（3）
アシスタントプロデューサー	三平希美(3)　鈴鹿萌笑（2）
エグゼクティブ・プロデューサー	島田英二
撮影監督	小室大樹(3)
撮影助手	段坂一貴(3)　鶴田寛也 成田琉夢(3)
録音	門出由梨(3)
録音助手	山田梓(2)　渡邊健介(3) 鶴田寛也
照明	福田航也(3)　渡邊健介　鶴田寛也

美術監督	三平希美
美術	鈴鹿萌笑　小松仁(3) 村上優真(3)
キャスティング	渡邊健介　三平希美　今荘健 鈴鹿萌笑　鶴田寛也
制作	三平希美　鈴鹿萌笑　村上優真 小松仁　福田航也　段坂一貴 鶴田寛也
制作協力	廣瀬崇人(2)　上村琢磨(2) 古田逸晟(2)
ヘアメイク	宮崎ちほ（札幌ﾋﾞｭｰﾃｨｰｱｰﾄ専門学校）
メイキングビデオ	成田琉夢　渡邊健介
メイキング編集	渡邊健介
MA	塚原義弘（Studio Riccio）
編集・VFX	鶴田寛也　門出由梨
Color	成田琉夢　鶴田寛也
車輌	今荘健　小室大樹　島田英二 浅川優衣(4)　白金悠(4)
ロケ地協力	北海道情報大学　えぞりすmeal Life Style Create カラオケ歌屋江別店 札幌駅　野幌駅　浅川家
協力・Special Thanks	Casting Office Egg 札幌ビューティーアート専門学校 株式会社ムービングワーク 佐野美樹　小俣一希　安倍隆 小田島啓太　木下篤司 佐藤真美子　中道大樹　似鳥克馬

3.　コンテスト応募と参加

完成した作品は第 17 回札幌国際短編映画祭に応募し入選した。2022 年は世界 95 の国と地域から 2,712 本の応募があり，ここから 81 作品がノミネートした。前年度の映画祭はコロナの影響でほとんどオンライン開催であったが，この年はオンラインと対面開催を合わせたハイブリッドの映画祭となった。『星が瞬く夜に』は北海道セレクションにプログラムされ，会場であるサツゲキ（札幌市中央区南 2 条西 5 丁目 6-1　狸小路 5 丁目内）で，2022 年 10 月 7（金）19:30～@シアター4 と 10 月 10 日（月祝）17:30～@シアター3 の 2 回上映された。上映には監督の今荘健とプロデューサーの鶴田寛也が参加し，舞台挨拶を行った。

図 42　映画祭での舞台挨拶（左から鶴田，今荘）

図 43　舞台挨拶 2（中央：今荘，その右：鶴田）

4.　まとめ

4-1 感染防止の観点から

本プロジェクトは 2021 年 9 月～2022 年 3 月の新型コロナウイルス感染拡大の第 6 波の時期に行われた。本学の危機管理レベルが最も低い「レベル 1」の期間であったことで，学生の制作活動は教員の監督のもと十分な感染対策を施すことで認められ，前年度に比べると撮影上の大きな制約なく実施することができた。映画祭についても対面上映が再開され，2022 年はパンデミックで停止していた社

会が回復していく兆しが見られた。期間中は俳優やスタッフも毎日検温と健康調査を続け，感染者を出すことなくプロジェクトを終了できたが，俳優の一人が一時濃厚接触者に指定され撮影が中断したり，使用する公共施設で濃厚接触者が確認され消毒のため利用できなくなるといった影響があった。撮影は 2 月頭から始まり，間に濃厚接触者の自宅待機期間を待って 3 月の頭に終了した。撮影期間は約一ヶ月と長きに渡ったため，日によってスタッフのスケジュールが合わず役割を交代することもあった。しかしパンデミック下においてはスタッフが休息を取れることも感染予防の観点から重要であり，スケジュールは押したものの順調な進行であったのではないかと評価している。

4-2 プロジェクト管理の観点から

本プロジェクトでは前年度のプロジェクトから引き続き，遠隔になった場合も対応できるよう ICT サービスを多く使用し（表 6），進捗管理では主に Discord を使用した。

表 6　プロジェクト管理と使用した IT サービス

項目	サービス	登録	料金
事務連絡	LINE	要	無料
進捗報告	Discord	要	無料
ビデオ会議	Zoom	要	無料
データ共有	Google Drive	要	無料
企画・ブレスト	Miro	要	無料
プレビュー	YouTube	要	無料

この短編映画制作プロジェクトでは 2020 年度の新型コロナウイルスのパンデミック（第 3,4 波）を機に Discord を導入した。Discord は複数のスレッドを立てられるので，多くの部署を同時・包括的に進捗管理する必要のある映画制作のようなプロジェクトには適していると感じている。本プロジェクトでは検温の報告・連絡にも Discord を使用した（図 44）。その他，データ共有は Google Drive，企画・ブレストには Miro，プレビューチェックには YouTube を活用した。どのサービスにもスマホアプリ版があり，スタッフの全員がスマートフォンを持っている今，一台のスマホで情報共有を完結できるのが良い点である。一方，それぞれにアカウント登録が必要なので，メンバーによっては初めて導入するにはややハードルが感じられるかもしれない。昨年度に続き使用して利便性を感じているので，経験値をアップデートしていきたい。

図 44　Discord の画面

4-3 おわりに

本プロジェクトは新型コロナウイルス感染拡大による影響下（いわゆるコロナ禍）で行う 2 回目のプロジェクトであったが，IT の援用を受けて様々な部分が効率化し，「コロナ前」よりもプロジェクト運営がしやすくなっていると感じた。そして様々なツールを使用することで結果的に，参加する学生の IT スキルも高まっているように感じている。

本作は作品単体の企画としては「友情」と，「困難を乗り越え成功するサクセスストーリー」として王道をいくような「ありがちなドラマ」であるが，視覚的にストーリーを伝える工夫を盛り込むことでテンポよく見られる作品

となった。そして作品を企画した学生たちが映画の中で伝えたいと思ったことが「逆境でもあきらめないことの大切さ」「弱い人間であっても悪い時を乗り越えて強くなれる」という，コロナ禍の中で彼らなりに見つけたメッセージであったことは，指導教員として最後に付け加えておきたい。そして本物のコロナ禍の中で苦労しながらも作品を完成できたことは，彼らにとって自信となり，「夢をあきらめない」というメッセージを体現することになったであろう。次年度の作品では企画の部分でオリジナリティを出せるような開発を目指したい。

謝辞

本プロジェクトを行うにあたり本学から多大な援助を頂いた。また感染防止にあたり本学の保健センターから適切なアドバイスと協力を頂いた。心より感謝いたします。

参考文献

島田英二（2022），「コロナ禍における感染防止型撮影実習ワークフローの考察 短編映画『バズれ!大根おろし』制作プロジェクトを事例として」『北海道情報大学紀要』Vol.34。

北海道情報大学（2021），「新型コロナウイルスワクチン大学拠点接種を終了」https://www.do-johodai.ac.jp/topics/8401/ （2023 年 5 月 30 日アクセス）。

平館銀河（監督）（2012）「Perfect One Room」（日本/短編映画/13 分）。

松本人志（監督）（2009）「しんぼる」（日本/長編映画/93 分）。

田中亮（演出）（2018）「コンフィデンスマン JP 第 1 話 華麗なる詐欺師 今夜の標的は強欲非道ゴッドファーザー!!」（日本/TV ドラマ/84 分）。

Amazarashi（2015）「季節は次々死んでいく」（日本/ミュージックビデオ/6 分 2 秒）https://youtu.be/wtJcLWeY114 （2023 年 5 月 30 日アクセス）。